

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
令和3年 3月発行 No.60号



イロタマキビ「仲良し」

特定外来生物「ツルヒヨドリ」の駆除を実施

12月5日（土）、西表島西部の白浜地区において、外来生物法（注）で特定外来生物に指定されている「ツルヒヨドリ」の抜き取り駆除が環境省西表自然保護官事務所、パークボランティアで実施され、大原森林事務所地域技術官と当センター職員4名も参加しました。

数年前から西表島にもツルヒヨドリが侵入してきており、在来種の保護等を目的に緊急課題として関係機関と協力し駆除に取り組んでいます。当日は雨の中での作業となりましたが（写真：1）、大型のゴミ袋10袋以上を抜き取りました（写真：2）。また、12月10日（木）には、国有林内で祖納森林事務所が主体になり当センター職員3名も参加して抜き取り駆除を実施しました。



作業風景（写真：1）



抜き取ったツルヒヨドリ（写真：2）

抜き取ったツルヒヨドリは、密閉した袋に入れ、数日後に完全に枯死したことを確認して処理施設まで運搬、焼却処分しました。時期が遅くなりましたが、幸い花芽はあまり付けていませんでした。

（注）特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（略称）



タシロマメ生育地巡視を実施



2月2日（火）、仲間川上流に生育しているタシロマメの状況確認のため巡視を実施しました。タシロマメは、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅰ-A類に区分されている希少種で、国内では石垣島と西表島にのみ生育が確認されています。当センターでは、この保護に資するため5年毎に生育調査を実施しています。前回は平成29年度に実施しており、次回は令和4年度となっています。

す。今回の巡視では、母樹3本（写真：3）と稚樹の発生等の状況確認を行いました。母樹はいずれも良好な生育状態で、その周辺下層には稚樹が数本見受けられましたが（写真：4、6）、平成29年度の調査では多数の稚樹を確認しており、比較すれば今年は少ないのではないかと思います。周囲を見るとイノシシによる掘り返し跡（写真：5）もあり、その影響も少なからずあるのと、加えて豊凶周期による影響もあるのではないかと考えています。今後も巡視による経過観察を続けることとしています。



タシロマメ母樹（写真：3）



タシロマメ稚樹（写真：4）



イノシシの踏み荒らし（写真：5）



タシロマメ稚樹（写真：6）

「ギンネムキジラミ」発生？

今年に入って県道沿いや田畑の畦、歩道沿い等のギンネムの集団地で、一斉に葉を落としている光景が見られました（写真：7）。今年は例年より寒かったようですし、それで葉を落としたのか



葉を落としたギンネム（写真：7）



ギンネムキジラミ（写真：8）

とも思いましたが、ギンネムに近づいてよく見るとたくさんの虫がついていました（写真：8）。

これは、ギンネムキジラミというギンネムの樹液を吸って枯らしてしまう害虫？で、大量発生すれば同種を壊滅させてしまうほどのようです。数mmの小さな蟬の様な形をしています。強風ですぐに飛ばされてしまいますが、そのおかげで長距離の移動が可能となっているようです。例年、多少の発生によりギンネムを枯らしているようですが、今年は幾分か多いように思えました。

西表島一周巡視を実施

3月4日（木）、西表島の一周巡視を実施しました。これまでの情報に基づく固有植物等の生育状況や外来種の侵入状況等の確認、崩壊地の有無等の調査のため、毎年傭船して沖縄森林管理署大原、祖納森林事務所とともに実施しています。例年は波の穏やかな5月から6月頃実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響や諸事情で波の荒い3月の実施となりました。そのため、例年より大型船での巡視となりました。

ウナリ崎に近い船着き場から出発し、白浜、内離島、網取、崎山、中御神島を經由し、南部の鹿川、南風見、東部に行き美原、小浜島、船浦湾を遠目に回って帰港しました。島外から眺める西表島は南の島そのもので、ヤシやヘゴ等も良く見えます（写真：9）。変わった形の岩（写真：10）や、滝（写真：11）、海に目を向ければサンゴ礁やトビウオ、アオウミガメ（写真：12）、空にはカツオドリ等の海鳥、河口には広大なマングローブ林が広がる等、西表島の多様性がうかがえます。今回は湾内に入ったり、上陸して確認することは出来ませんでしたが、小型船では行けない祖納森林事務所管内の中御神島を遠望で巡視することができました。



ピロウ群（写真：9）



ゴリラ岩（写真：10）



落水の滝（写真：11）



アオウミガメ（写真：12）

「イリオモテヤマネコ」に接近遭遇

1月13日（水）、西表島の外来種対策でツルヒヨドリとギンネムの駆除箇所へ向かう途中、車の前を横切る黒い物体がありました。「イリオモテヤマネコじゃないかい？」と、同僚とそう話していると再度横切るものがありました。今度はそれがイリオモテヤマネコとわかりました。車の前をゆっくりと歩いているからです（写真：14）。しばらく音を立てないようにあとをつけていると今度は道脇に座り込みこちらを観察しています（写真：15）。これは、シャッターチャンスだと思い、車から降りてヤマネコに近づきますが逃げません。あまり近づきすぎて噛みつかれたら困りますので、少しだけ撮影させてもらってそっとその場を離れました。このことは、目撃情報として西表野生生物保護センターに連絡をしました。



イリオモテヤマネコ（写真：14）



イエネコではありません（写真：15）



後ろ姿（写真：16）



後ろ姿（写真：17）

「イリオモテヤマネコ」

学名： *Prionailurus bengalensis iriomotensis*

R D情報：絶滅危惧IA類（EN）（環境省レッドリスト）

生息地：沖縄県西表島のみ分布

推定個体数：約100頭（2008年調査結果）で減少傾向。

特徴：西表島の固有種。体重3～5kg、頭胴長約50～60cm

餌は小型哺乳類、鳥類、爬虫類、カエル類、昆虫類と多様

生息をおびやかす要因：交通事故、好適生息地の消失及び改変など

（引用：環境省西表野生生物保護センターHP）



マングローブ紹介のコーナー（マヤプシキ）

マヤプシキは、マングローブ林の最も海側部分に生育します。高さは、約10m程度までになります。地中から突きだした呼吸根（匂根）が特徴です。西表島では、大原から古見までの東部地域に多く生育し、西部では数本程度が確認されています。葉は、両面で光合成ができるしくみ（等面葉）になっており、葉の先は鈍形です。実がネコ（マヤ）のおへそに似ていることからマヤプシキと言います。正式名称はハマザクロと言います。



「匂根」



「葉と花」

ヒメツルアダン

RD情報:環境省レッドリスト:絶滅危惧Ⅰ-B

- ✧学名 : Freycinetia williamsii
- ✧科名 : タコノキ
- ✧分布 : 西表島、台湾、フィリピンなど
- ✧葉の形 : 線形
- ✧葉の先 : 鋭線形
- ✧葉の種類 : 単葉
- ✧実の種類 : 集合果
- ✧花・萼の色 : 黄白色



林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

